

(別紙 2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 2 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4 2 7 0 1 0 2 6 3 7		
法人名	株式会社アイ・エル・エス		
事業所名	グループホーム オランダ坂		
所在地	長崎県長崎市十人町 2 番 8 号		
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 17 日	評価結果市町受理日	平成 26 年 3 月 25 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 1 階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

生活環境が変わっても、安心して暮らしていくことができるよう、家庭の中にいるような雰囲気づくりを心掛けています。「共に生活をする」という気持ちを大切に、職員は利用者様に寄り添いながら、笑顔のたえない楽しい暮らしができるよう、お手伝いしています。また、ホームが所在する地域は連帯感が強く、住み良い地域をつくっていくために、自治会が活発に活動されています。私たちも自治会の一員として、地域の行事や活動に参加させていただき、地域の皆様の温かいご理解とご支援をいただきながら開かれた施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは、地域に密着したその町並みならではの、石畳と風情に親しみの持てる暮らしの継続を支援されている。代表者は、祖父母との関わりを知らない娘に高齢者と触れ合う機会を与えたい思いと心の育みを願い開設されており、代表者の思いは、開設時より関わる職員との信頼関係も深く浸透し、離職者も無く連携が持たれている。また、入居者と心の関わりを大事に、「家族」として入院時の見舞いや洗濯等惜しまない支援で守り続ける事を大切にされている。浴室や共用空間等を改装された事で、明るく清潔感もあり、整理整頓されている。職員の細やかな支援は、おいしい食事の提供や可能性を見いだすケアをチームワークにより、工夫しながら尽力されている。防災においても、地域の協力体制の重要性を考慮して、自治会長の働きかけもあり、継続的な訓練の実施で更なる強化と構築に努められているが、必要性があるスプリンクラーの設置が不可能な点もあり、「入居者を守らなければ」との思いの決断で夏頃には移転を考慮して、新たなホームの建設に取り組まれている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から「住み慣れた地域で安心して暮らす事ができるよう支援します」「可能性を信じ、ゆっくり待ちます」という理念を掲げており、職員が日々実践につなげている。	朝礼の後、理念を唱和する事で代表者の思いが職員に浸透し、心のこもったケアに繋がっている。入居者の取り組む姿勢をゆっくりと待ち日々の積み重ねと自信に向けた励ましにより、笑顔の関わりを得られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として地域行事や訓練等に参加させていたっている。自治会の地域活動がとても活発なので、助けていただいている部分がたくさんあります。	隣近所とのお付き合いや玄関前のベンチで日光浴を楽しんだり、通行人と挨拶を交わし普段の関わりが得られている。防災において地域の方々と訓練の実施や地域の事業所との協力関係も構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として地域貢献といえる活動は行うことができなかったが、運営推進会議を通じて 認知症ケアの啓発に努め、ホームに対する認識を深めていった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催している。ホームからの報告や自治会の活動、取り組み、行事など内容は多岐にわたる。意見や助言等をいただき、サービスの向上に活かすことができている。	会議は、自治会長の働きかけで副会長・民生委員に参加頂き、入居者の状況報告や防災について双方向の話し合いにより意見を反映されている。今後は、議題内容を明確にして、効果的な意見の傾聴を考慮されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方には電話または直接お会いして、よく相談に乗っていただきました。今後も継続して関係づくりを積極的に行っていきたい。	入居者の生活保護の手続きで出向いたり、電話での相談と情報収集や状況報告にも対応して意見を頂き、協力関係が構築されている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する研修を行い、「身体拘束は行わない」ことを原則に介護にあたっている。自覚のない身体拘束を行っていないか職員同士で確認合っている。	身体拘束の研修に参加して、安全に配慮した言葉掛けが拘束になっているのではないだろうかと気付き内部研修で話し合われている。職員相互に指し合い、身体拘束のない徹底したケアの実践に繋がられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を実施し、高齢者虐待防止法について理解するとともに、徹底した虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば職員に説明を行っているが、対応が必要な利用者がいないため、学ぶ機会がなかった。今後、勉強会を開き、職員が権利擁護についての理解を深めるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項、契約書、終末期の対応について説明し、疑問点や不安事に答え、理解、納得された上で同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や要望があった場合は、早急にミーティングを開催して全体で話し合い、今後の事業所の運営に反映させている。また、運枝推進会議にご家族に参加していただき、外部にも思いを伝えられるようにしている。	入居者の介護度の低下に伴い、言葉として意見・要望の聞き取りは困難になっているが、入居者の気持ちになって幸せと思って頂ける様な支援を心掛けられている。家族の意見・要望があれば迅速な対応で反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開催し、意見や提案を聞くようにしている。また、代表者、管理者は積極的に職員の意見に耳を傾け、その都度対応している。	職員の体調管理に留意して、相互の関係を大切にチームワークを心掛けて意見・要望の言える関係を保持されている。外部研修内容の気付きを報告して、ケアの格差を無くす様に努め共有を図られている。	

12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場を訪れ、職員がストレスや疲労を感じていないか気を配り、同時に職能評価も行っている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を基に職員が知識や技術を習得できるようにしている。また、職員の希望に応じて外部研修にも参加してもらっている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。外部研修に参加することで個々にネットワークづくりができています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談を行い、ご本人の意向や現状を十分把握した上で本人と向き合い接することで信頼関係を築いている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居依頼の相談や見学の段階で困っていることや不安なこと、これまでの経緯についてを十分に聞き、入居後も密に連絡を取り合うことで信頼関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族から情報収集を行い、何が必要かを一緒に考えている。他のサービスが必要な場合は居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等につないでいる。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に人生の先輩として「教えてもらう」場面を積極的に作るようにしている。利用者と職員が触れ合いを持つことで、気づかされることがたくさんあり、元気をもらうこともある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時には近況報告を行い、遠方にお住まいのご家族には電話や手紙等で本人の暮らしぶりをお伝えするようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームが所在する地域の出身の利用者が多く、入所を聞いて友人や古い知り合いが訪ねてこられることがある。	馴染みの地域で馴染みの方と挨拶を交わす普通の暮らしの継続支援が得られている。顔馴染みの友人が訪問されることもあり、勤務年数の長い職員との馴染みの関係も構築されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然な関わりができるよう見守っているが、場合によっては職員が間に入り、居場所を考慮したり、雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度サービス利用が終了された方は一人もいなかったが、サービス終了時にはご本人、ご家族の不安を受け止め、相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が誰を頼りにどうしたいのか、日々の関わりの中で表情や言葉から感じ取り把握に努めている。	職員は、入居者の可能性を見出せる様にゆっくり待つ支援で連携を持って関わられている。入居者一人ひとりに寄り添って、入居者の声・言葉に耳を傾けて見守られている。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人、ご家族からの聞き取りでは情報は不十分なため、入居後もご本人とは普段の会話の中で、またご家族や友人等が訪問された時にも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の年齢、現病歴により心身状態に個人差があるので、一人ひとりに合わせた支援は難しく十分にできたかは判断できないが、今後も利用者の現状の把握に努め、支援していきたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に改めてサービスに対する意向や要望を尋ねても十分な回答が得られないので、普段の関わりの中で思いを聞き、介護計画に反映させるようにしている。	入居者の日常的な暮らしの中で可能性を見いだす為に、職員の意見の聞き取りをまとめて、アセスメントの要約に努められている。長期・短期の期間を設けた上で、入居者の状況変化に応じた随時の見直しや評価により、次の作成に繋がられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録に一日の暮らしの様子や状態を記入している。個別記録を介護計画のモニタリングに活かしているが、最近では記録の記載が少なくなってきたので、改善していきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に必要があってもご家族が対応できない場合など、職員が臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の福祉施設の方々にボランティアでホーム周辺の草刈りをしていただいたり、畑の作物の収穫にお誘いいただいたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を希望される場合は、基本的に家族対応をお願いしているが、場合によっては職員が受診介助を支援している。また、ホームの協力医により、隔週の往診、緊急時の対応を行っている。	かかりつけ医への定期的な受診や薬局の薬の配達等の協力により、入居者の健康保持がえられている。入居者の緊急時の往診や夜間も対応して頂ける事で職員や家族の安心に繋がっている。	

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜勤の勤務者ではあるが、看護職員を数名採用しており、看護の面での相談ができる環境を整えることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報提供をを行うとともに、早期退院に向けて、病院関係者やご家族と密に連絡を取り合い、職員が状態確認のために病院に面会に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の判断により医療処置、医療行為を必要とし、ターミナルと判断された場合はホームで介護ができないため、病院への入院及び対処となることを入居前に説明し、理解をいただいた上で契約をしている。	看取りはしない方針を明確にして、入居時、説明の上受け入れられている。医療の必要性があり、入院された場合は、代表者及び職員は「家族」として見舞いや洗濯等惜しまない入院支援をして、今後も心掛けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修を行っているが、実技訓練を行う機会を設けることができなかった。今年度、職員が救急法講習の受講を予定しているため、実践の訓練を行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が実際に利用者を避難させる訓練を繰り返し行い、防災意識の高揚に努めている。地域との合同訓練を通じて、施設の実態を認識していただき、通報システムに地域の方を登録する等緊急時の応援、協力をお願いしている。	地域の協力の方々と事前の話し合いの下、消防署立会いで合同防火訓練の実施と反省の話し合い及び独自の地震・大雪等災害訓練や毎日の自主点検を取り組まれている。2階の入居者は和室で休んで頂く等を工夫して、消火器も各居室に設置されている。屋外を整え避難経路も3箇所確保して、入居者の安全避難を考慮されている。	入居者の安全を第一に更なる危機管理に努めて、備蓄一覧表の食品の消費期限を明記して交換の必要性を期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉遣いや対応が利用者の人格を損なう対応になっていないか、普段から職員同士でお互いを確認し合い、改善に努めるようにしている。	入居者の表情や機嫌の良い折を判断して、小声での問いかけに留意されている。入居者本位のケアと尊敬の念を持ち、周囲の方への配慮も心掛けて職員相互の連携を保持しながら、羞恥心にも留意されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な利用者であっても、職員が何事も決めてしまうのではなく、表情や反応を読み取り、自己決定に繋げるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で利用者の行動を決定することなく、本人が望むことに対して必ず耳を傾け、実現できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができる利用者とは着替えの際に職員と一緒に服を選んでいく。また、清潔に身だしなみを整えるための支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態にあわせて役割を持ってもらっている。一人ひとりの好みを把握し、季節感を活かしたメニューづくりを心掛けている。	御飯の柔らかさ、味付け、彩り等栄養バランスのある食事の提供に代表者及び職員の真心が窺える。職員は、入居者が自立し食事が取れる可能性を大切に、待つ心でゆっくりと対応されている。配膳後の咀嚼状況を見て刻みを試み、食への楽しみを支援されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を記録し、職員が情報を共有している。食事摂取が困難な場合は、主治医と相談しながら栄養補助食品に代替する等、健康維持に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が十分理解した上で、毎食後、歯磨き、うがい、口腔清拭、義歯洗浄を行っている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握した上で誘導を行なっている。可能な限り、日中はトイレでの排泄を目指している。	入居者の仕草や機嫌等心身状況の変化に応じて、パット使用や声かけ誘導でトイレでの自立に向けた排泄支援をされている。夜間は、ポータブルやオムツの使用と時間おきの確認で清潔保持に留意されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはできるだけ自然排便ができるよう工夫しているが、医師が必要と診断した場合は、緩下剤を服用するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望があれば個々に応じた入浴支援ができる体制を整えるが、現在希望は聞かれていない。入浴の時間を楽しんでいただけるよう、気配りをしている。	浴室は、清潔的で明るくバリアフリーに改修されている。入居者の入浴での心労も考慮して、週2回程度だが、行事前の入浴や状況に応じて随時、又は、必要に応じたシャワー浴で清潔保持に努めた支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調やリズムに合わせ、休息、睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、職員が薬の目的や副作用、用法、用量を把握できるようにしている。また、服薬チェック表に本人に薬を手渡し、飲み込んだことを確認した職員が記名するようにしている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が得意とすること、楽しみごとを役割としてもっていただいている。利用者それぞれの好みに合わせた活動が実施できるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて外出支援を行っている。ホームのイベントの際には全員が参加できるよう、職員間で連携を取り、実現させている。	石畳の階段の上がり降りの心労もあるが、入居者の身体状況を考慮して、季節の行事の見物や散歩に同行されている。玄関前のベンチでの日光浴や通行人の方への挨拶等気分転換を図る支援を心掛けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭の所持を希望される利用者はいないが、地域の行事にお賽銭を持って出かける時には利用者にお金を持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が手伝いながら、ご家族や友人宛に年賀状等を出せるよう支援している。電話については、ご家族等に了解をいただいている場合は本人が電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花を飾り、掲示物等も生活感を損なわない程度うに止めている。	改装により、明るい雰囲気の中で職員の笑顔や細やかなケアの下、入居者は安心した時を穏やかに過ごされている。入居者の席の配置やバリアフリーへの改修で安全性に努め「我が家」の趣を大切にされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士は自然と近くの席に座って会話をしたり、テレビを一緒に観たりしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや今まで使っていたもの等を持って来ていただいている。居室は毎日、掃除、整理整頓を行い、清潔と安全に留意している。	趣の異なる居室は、椅子、ベッド下の収納や唐家具の配置で整った雰囲気と清潔感を保持されている。2階の入居者は、安全に配慮して相性の良い方と共に和室で休まれる等目配りの出来る支援を考慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置し、利用者が安全に移動ができるよう、整理整頓に努めている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない